

平成31年3月31日

【令和元年度第1回（29回）セミナーのご案内】

日 時：令和元年6月15日（土）13：30～16：30（13：00から受付）

場 所：日本点字図書館

テーマ：「小学校用教科書の改訂に当たって、点字教科書製作で考えること」

来年度（令和元年度）は小学校用教科書が改訂されます。どのような内容になるのか、たいへん興味深いところです。

私たちは日ごろ、インクルーシブ教育用の教科書は原本に忠実に点訳しています。一方、視覚特別支援学校用教科書は、文部科学省の編集委員会によって点字教科書用に編集されたものが、制作されています。セミナーの前半では、原本の選定から始まって、点字教科書ができるまでの過程について詳しくお聴きします。

また後半は、ご自身の体験談を、インクルーシブ教育の経験者である森田佳那子さんにうかがいます。

プログラム

13：00 受付

13：30 開会挨拶（当会理事長）

13：40～14：30 「盲学校用点字教科書の製作過程について」

（文部科学省視学官 青木隆一氏）

14：40～15：20 「インクルーシブ教育を受けて来た体験談」

（社会福祉法人桜雲会勤務 森田佳那子氏）

休憩

15：40～16：20 情報交換

16：20 閉会挨拶

16：30 終了

定 員：80人

参加費：無料

お申し込み・問い合わせ

5月26日（土）までにメールかファックスで、下記までお申込みください。

その際、お名前、所属グループ、連絡先をご連絡ください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

日本点字図書館 松本 e-mail: matsumotom@nittento.or.jp

TEL: 03-3209-0241（代表）/FAX: 03-3204-5641

【平成30年度第2回（28回）セミナーのご報告】

日 時：平成30年12月1日（土）13：00～16：00（12：30から受付開始）

場 所：日本特殊陶業市民会館 第1会議室

テーマ：「ニーズに応える工夫でよりよい点字教科書を」

1. 点訳グループ事例報告

東海地域の三つのグループより、工夫している点、課題など、これまでの経験をもとにお話しいただきました。

【点晴会】

パソコン点訳は平成6年から始め、盲学校や大学生の参考書を手掛けた。その後、中高生の参考書を点訳。平成26年から教科書点訳を開始。

保健体育は運動・動作など図での説明が多く、言葉で補足。地図は枠を付けて範囲を明確化。数学では必要と思われない図は削除。体積を求めたり、合同な三角形を選んだりする問題は、長さや角度など必要な情報を言葉で説明。説明文の後に図を入れ、線は大中小の点の種類で差を付けるのではなく点の間隔を変えて区別し、見取り図より投影図・展開図を使うなど気を付けている。エーデルで不要な点が残らないよう、オプション→作図→基底モードの「NON」にチェック。

小学1年の生活は絵がほとんど。教育委員会を通して学校に連絡を取り、児童の状況を教えてもらった。児童は点字で文章が読めないこと、学校に点字が読める先生がいないことも分かった。点字が嫌いにならないようにと思い、文章は簡潔にし、長文になる絵の説明は枠線に入れ、飛ばせるようにした。盲学校用教科書を取り寄せ、レイアウトやどこまで記号を使っているかを調べ、昆虫は辞書で調べて言葉で説明した。

そのほか、文科省とのやり取りには担当者を置き、教育委員会とのやり取りは記録をとっておくなど、連絡がスムーズにいくよう心掛けている。

【れんげ点訳の会】

東京でずっと点訳してきて、12年前に岐阜に引っ越してきてから「れんげ点訳の会」を結成。東京の「つつじ点訳友の会」のことから話を始めたい。

練馬区視覚障害者協会が日帰り旅行の介添えをする人を募集していて関わりができ、点字を教えてもらった。区内の盲児を持つ親の会に何かできないかと尋ねると、点字の学習書を求めている人が多いことが分かり、「つつじ点訳友の会」では当初から学習書の点訳をしている。高村明良先生（元筑波大学附属視覚特別支援学校・数学教諭）にアドバイザーになってもらった。

間もなく大学を希望する人から依頼を受けるようになった。大切にしてきたのはスピーディーな点訳。授業に合わせて点訳することをモットーにしていた。

れんげ点訳の会は「つつじ点訳友の会」のやり方を踏襲。人数が少ないので、依頼のあった点訳は全員参加で点訳している。

【桑名点訳会】

公的資料、サピエにアップするもの（5回校正）、楽譜・琴譜、教材など毎年約15万ページ点訳。このうち平成28年度の教材は59タイトル90,458ページ。一つのタイトルを少しずつ分けて分冊点訳。

教科書点訳は平成3年から。小中学校の場合は8月頃依頼されるが、原本教科書を教育委員会や学校に頼むと時間がかかるので広島教販にインターネットで注文。翌日に届く。教科書は部分改定があるので11月に教科書協会に次年度使用するものを申請。社会の資料編などは資料編の言葉や数字がよく変わる。1月まで校正を重ね、2・3月に印刷。小中学校用は自動で墨字がつく印刷機で印刷。エーデルは先生用に墨字でも印刷。

高校は3月末から4月にかけて教材が来る。学期途中に来ることもある。原本が届いたらすぐにコピーをとり、会員の家のポストに入れ、その日の内に点訳開始。大学生はテキストデータを変換してピンディスプレイで読めるようになり、点訳依頼は減った。

問題点は高齢化と、若い人があまり時間をとれないこと。

2. 当事者の事例報告

愛知県内でインクルーシブ教育を受け、点字教科書を使ってこられた立場から、これまでの経験や思いをお話しいただきました。

①親の立場から＝橋本淑江氏

娘は保育園で友だちができ、楽しそうにしていた。双子なので同じ学校に行かせたいという思いもあり小学校に入学。娘は保育園時代に点字をライトハウスの岩山先生に学び、親は点訳グループで教わった。

低学年の教科書はタックペーパーを張って手作りした。中学は障害児サポーターの制度があり、点訳グループの方が学校で日々のプリントなどを点訳して下さった。

高校になるとさらに教材が増え、県外の点訳グループにも依頼。一つのグループにかかる負担の大きさも考慮し、何をどのグループに依頼するか悩んだ。高校1年時は入試が終わってからでないと教科書が手配できない。自宅用と点訳用2冊、計3冊の墨字教科書を買うこともあった。

先生は点訳に関わらず、ボランティアが派遣業者に登録して、業者のスタッフという立場で学校に入る形がとられた。シフトを組んで毎日交代。先生とボランティアとのコミュニケーションはとりやすく、教材のどこを使うかなどのやり取りができた。

ボランティアさんやライトハウスの支援があって、やってこれた。新しい点字の学習に行き、どんな点字が読みやすいか頭を悩ませて下さった人たちを間近に見てきたし、私たちの歩みを後押しして下さった。これからも一般校への希望者がいるときはお力を貸していただきたい。

②当事者の立場から＝橋本育実氏

小学校中学年頃から教科書が増え、教材は学校用と自宅用と2冊作っていた。6年生あたりから英語の2級点字をライトハウスで教わった。

中学に上がるときに点訳グループに挨拶に行き、多くのボランティアに支えられていることを感じた。中学は教材の量も多く、進度も早い。先生に言われたページをすぐに開くことが求められる。図表のページの角が落としてあったことや教材に紐のしおりが付けられていたこと、設問の選択肢が多いときには1ページに10個ずつ入れるなどレイアウトの工夫がされていたことがありがたかった。点訳者さんから親を通じて「分かりやすい？」と聞かれたが、自分のことで必死で、大丈夫としか答えられなかった。しかし、わかりにくいと感じた点訳は一つもなく、また、授業等に遅れることも一度もなかったため、学習内容の理解に専念できた。

大学に入り、ピンディスプレイを使用してデータのみで受講してから、改めて紙媒体の良さと点字のレイアウトの大切さを認識した。

ボランティアさんに支えられたインクルーシブ教育を受けられてすごく幸せだったと感じている。

その後のフリーディスカッションでも、点訳現場での悩みや工夫などについてお話していただきました。さまざまなご発言をくださったみなさん、ありがとうございました。

【平成30年度第3回理事会記録】

日 時：平成30年12月1日（土）11:00～12:00

場 所：日本特殊陶業市民会館 第1会議室

議 題：

1. 当日午後開催のセミナーの進行について確認した。
2. 今後の教科書点訳の進め方について話し合った

【平成30年度第4回理事会記録】

日 時：平成31年2月20日（水）13:30～16:30

場 所：新宿区リサイクル活動センター会議室B

内 容：

1. 2019年度総会の内容確認
平成31年2月20日現在の予算執行状況について会計から報告があった。
次期役員改選について確認した。

2. 「日本点字表記法 2018 年版」が発行され、合わせて理数関係の点字表記も変更されることにともない、「教科書点訳の手引き」を改定するかどうかを検討した。理数関係の点字表記以外に、UEB 表記に移行した英語点訳においても変更が生じる。「教科書点訳の手引き」（主に、各教科ごとの解説）を修正するよう、見直す。加藤、鈴、長岡各理事と、牟田口監事とで編集・担当する。他の理事も、6月までに「手引き」を見直し、気付いた点を ML にアップする。

印刷見積もりについて、いくつかのパターンをとって、最善の方法、部数を検討する。（松本さん担当）

また、ホームページでも、修正箇所を掲載してはどうかという意見があった。

3. 春のセミナーについて

日時は、令和元年 6 月 15 日（土）13:30～16:30

場所は、日本点字図書館で開催する。

テーマの候補として、

視覚特別支援学校用教科書の選定についての話

弱視児童生徒の現状について

視覚特別支援学校における英語のヒアリングの導入や学習状況について

触図のワークショップ

などの案が出された。詳細は、別紙参照。

【事務局からのお知らせ】

<会費納入のお願い>

令和元年度会費を同封の振替用紙にてご納入ください。

よろしく願いいたします。なお、総会のときにお支払いいただいても結構です。

<委任状のお願い>

6月の総会にご欠席される方は、委任状をお出してください。

発行日：平成 31 年 3 月 31 日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169 - 8586 新宿区高田馬場 1-23-4

Tel：(03)3209 - 0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180 - 7 - 262151